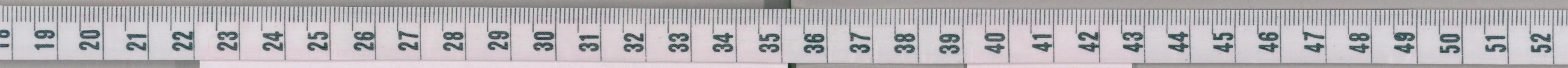
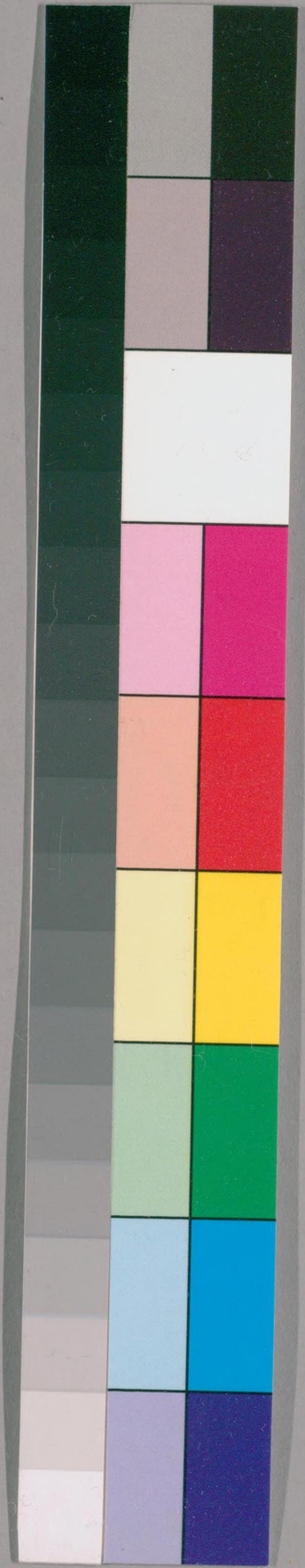


墓塚の志入
る回忌

863
102



国立国会図書館 タイトル『塚のしくれ』 請求記号 863-102

ガラス使用

付後

863-102



汗



萬事皆成りては
 りしれははるまのうら
 随分は解のちまに
 りのまはるはるま
 京師連綿して傳り
 弘小指筆のちま

市井の女衆のうらやまのけしきに
あふる女情の草に感慨の涙を
清き岸上に流さる事一志あり

雨景亭

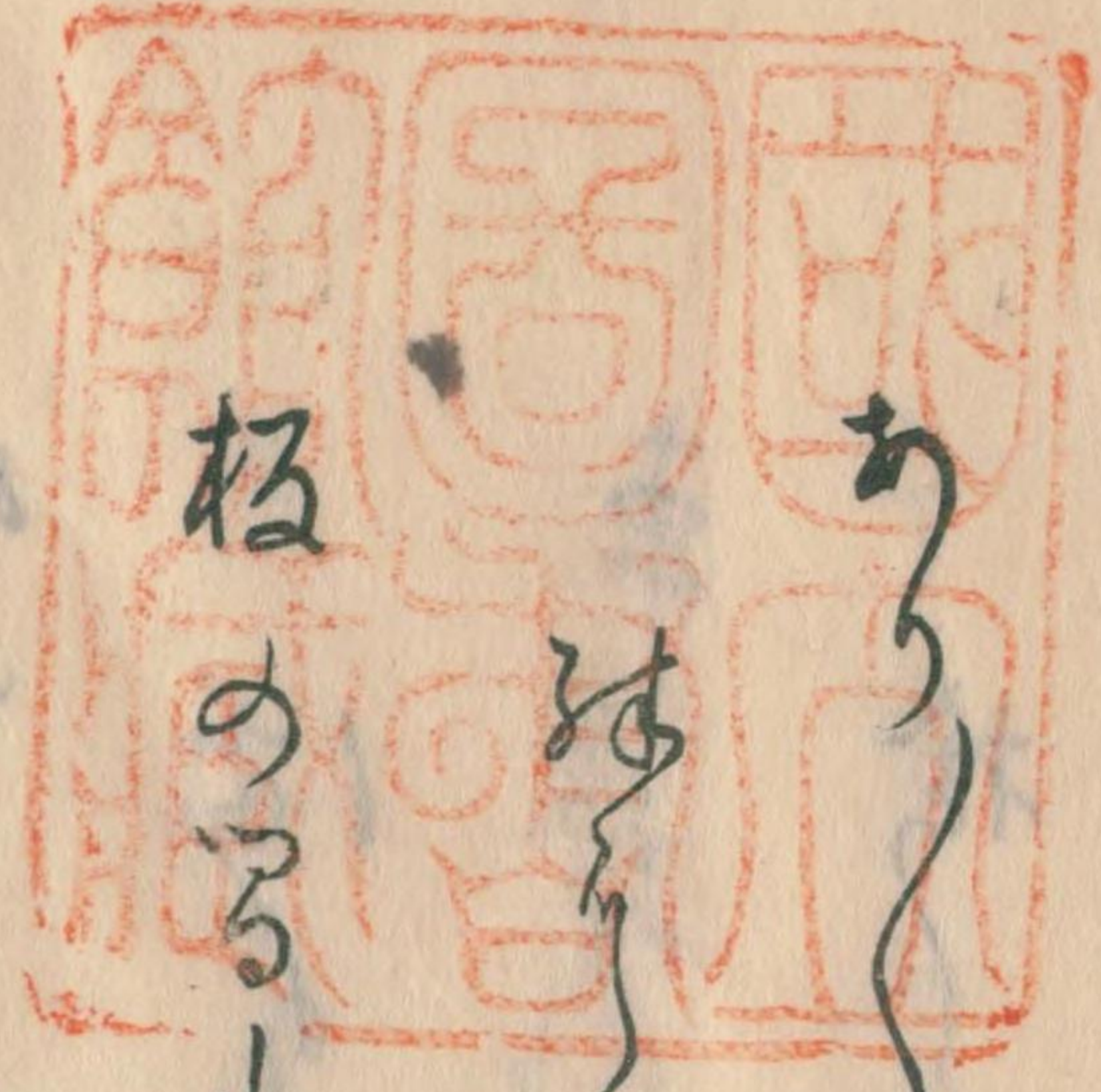
九柳

寛政入世林を月廿二日



能潜入十韵

子琴



あつしきうらやまのけしき
あふる女情の草に感慨の涙を
清き岸上に流さる事一志あり
極めるし鏡のふとく樹まき
あふる女情の草に感慨の涙を
清き岸上に流さる事一志あり
あふる女情の草に感慨の涙を
清き岸上に流さる事一志あり
あふる女情の草に感慨の涙を
清き岸上に流さる事一志あり



有明の朝しなめうに 新羅り 丑峯

松坂ハカリん しのく 波上 里中

家しや田舎の松小母帯ふれ 友守

はのうーとらうーん 茂妻

車しやうーとらうーん 渚玄

捨しやうーとらうーん 佳久

お漬にんとう思 小侍連 一枝

こやうはまうーとらうーん 巴中

口ツ鐘、ふれハま中の月も今 柳法

尾赤うられに 翠香 芝海

うやうやの 妻をゆめ 北静

多しぬ 減りし 味ふし 朴志

目積りれ 色り 新羅 物 左丸

は 神酒 色り 不 井金 瓢地

咲 涼し 猿 越の 世と あり 梅二

沁し 雲れ、 鮎の 毛 檀 敦可

新(糸)赤ややふふ見し〜らぬ後者

桂弁

む〜ら〜替〜わ〜し〜丹風

淡北

さ〜ら〜流し〜ま〜ある新(方)の陣

壬笠

〜〜に〜警〜れ〜連〜ま〜〜起〜ふ

九江

朝起し〜ま〜ら〜ら〜げ〜んよ〜し〜

北隠

く〜ら〜〜て〜新(祥)〜て〜ら〜流

笠古

大(高)に〜ら〜捨〜くり〜是〜當(毒)〜り

浮白

教の困(ひ)し〜ま〜ら〜ら〜る〜垣

子規

今〜〜し〜和(田)の若(ら)の昔〜く

葵由

中(け)ハ〜暇(れ)縁(遠)〜ら〜ふ

界北

お(節)徳も〜ん(次)り〜の〜さ〜り〜れ

挑尺

ま〜の〜し〜ら〜れ〜の〜け〜に〜ふ〜ら〜し〜

一喜

一(二)牧(芝)身(信)り〜流(不)破(の)月

茂朝

ろ〜小(滅)〜る〜雲(級)の(後)

丑草

耶(那)那(の)ま(の)の〜し〜ら〜ら〜れ〜と

辰義

ま(中)り〜流(美)り〜ま(流)〜ら〜る〜

流心

えさめより 治め 帽より 佳久

年々 不仲人 一技

衝之にか入の 獲心 猪子 巴中

あゝ 猫も 抑法

さき 呂箱

うさぎ 芝海

浪も 北静

か 柳 朴志

権現の本地と同一の 孤陀如来 念化

不さ 瓢地

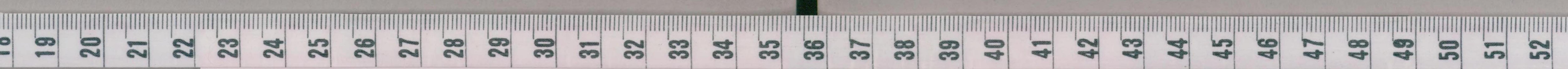
む 庵甫

あ 丸柳

あまの

大垣 庵甫

六井 丸柳



塚成りしきしんらんハ 眠るしと 朴衣

月夜くもり 粧清し 塚のま 友丸

あつし 於塚 少く 枝色 似ま 向あ 九江

免くし 母の 廿日 や 海り 咲きも 瓢丸

瑞り 咲く 花り 追えん 小の 魂 二

任く 日や 来し 而し 海り 咲 一 青

くくし 朝 起し 海り 塚に 衣 七 差

あり 夢も ちや 水し 思も 成 汲し 桂衣

木の葉 赤く 暮 小く 海 小 志 流し 可

於 塚 小 かくし 一 や 塚 の 衣 木 立 流丸

色 小く 衣 の 塚 や 衣 の 衣 小西々 丑 子

角 影 ち ぬ 雨 一 衣 衣 而 年 忘 改田 柳 流

あつ 衣 小 衣 向 高 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣 衣

世 一 終 一 一 四 可 衣 塚 の 衣 衣 衣 衣 友 衣

そ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

君 の 日 や 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

白濁しよ小女のうぶやうのるあえ
千代ま〜と〜葉も残ても向うふ
昔の道の路も浮ぶ〜〜くれうね
あ〜やの塚や〜葉ハ折れとも
〜〜〜や〜〜のふ〜と〜のふ
その葉のふに小女のひの〜ふ
何〜〜と〜あ〜〜ふ〜の〜日
も〜葉〜〜〜〜塚に〜〜か
一枝

辰妻

遠ま

大隈

望古

佳久

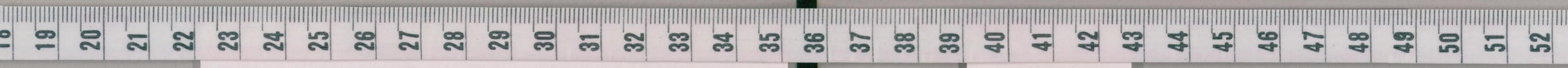
九静

里井

く〜ゆ〜けに口切の葉は石味とも
葉のむや〜葉のむやと〜のむや
今の世り〜ふ〜〜えれのる〜意
あ〜に〜枯〜れ〜の〜の〜葉と〜葉の〜法
巴中
芝海
晁九
呂翔

あ〜ふ〜葉〜〜け〜今〜見〜る〜塚の〜枯〜葉
桃里

あ〜〜〜時〜あ〜月の〜り〜ふ〜と〜遠〜と〜乃
社中〜お〜形〜〜〜〜〜け〜地〜に
葉〜葉〜而〜四〜此〜ら〜や〜曲〜と〜言〜言〜〜法〜
合〜瓜〜石〜洋〜



縁真八の表

九柳

そらまへへ 毎七初う 愚小 花う 柳

麦府は 江戸の 居屋 只

苦界より 今への 所帯の 氣あふて

あし 産し 種縁 只

あし 入る ちやく 八か 浦の 流

葦 由

友 家

瓢 九

穀 可

あし 外 只に 産し 柳の 只

九 江

あし 一も ちやく 江戸の 月め 草

昆 九

あし くれ ちやく 産の 種縁 只

挂 只

文通

あし 一の 月にあし 産し 柳の 只

伊尾

一 歩

あし 一歩に ちやく 産の 種縁 只

一 歩

るくやめくしゆ。——の月 横倉 彦花

あふまや 岩波 嘯蛙

あふし 岩波 琴糸

ゆりま 岩波 彦夕

伝香の袖 大洞 里蝶

る年 源坂 梅支

廿日 野村 枝友

あふ 野村 素文

和 女 垣芝

去 日 柳雲

是 日 流

と 日 窓雨

室 日 窓

又 日 魯新

海 日 五

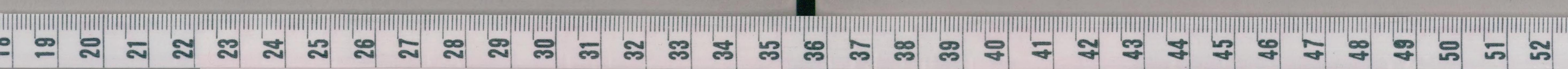
る 日 鬼尾

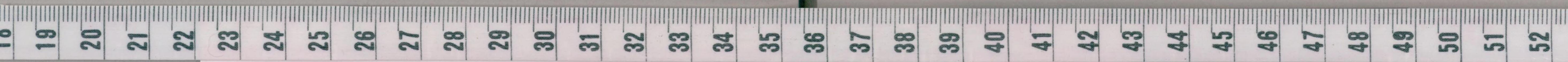
鳴きやうー程堆——塚の木の葉 舟子 空の芦
そよよとやるとやあ——塚の葉 香井 柳止
り——とやの古もや塚の——葉 三上 鳴文
一す——の古もや塚の 山田 古海
る——とやの古もや塚に帰——り 本々 法外
り 六井 塚 杉子
そ——とやの古もや塚 女 塚 塚
そよよとやの古もや塚——に帰——り 日 塚 根

碑の石のむら——ぬむや月の塚 三ツヤ 今朝
町にらに居るよもやター——れ 入 昨
河ありん青と——ふ 廿日ふ—— 文 繡
朝まねやけ——ふ ぬの 赤坂 蘭 戸
ぬすねハ——りやい—— 通 障の 塚 大坂 子 膚
そよよとやの古もや塚の葉 揚里

述が

塚のふさう——ぬ——る 在横か 上有記 揚里房





国立国会図書館 タイトル『塚のしくれ』 請求記号 863-102

ガラス使用